やまと小學

四

ロ 13
2318
4

日1-第13
23/8
4

傳小学巻之六

嘉言の篇第六

○おもしいろはぬよきこゝろ我ハいかりへの傳記とかんゞへ我ハまれあくゝ同じ事ときこゝろをもてとあつめ者數の傳說をもちとおしひろめ給ふ也

○富樫渠のいくく知ずるよハぬゞそのんぐてやくぐ法ぐまりてぐろくしくさらゞしかゝざるやうよ志ゝ物ごと移んといんつまびらかゝしてそさゝかしこゝろやうよおしへゝらぶやくまゝくゞりぐりんぐ法ぐまりおそくやうよみち

内藤虎次郎

びくべしおさなき時よりわりこまごまとそだてられ
ぬおごりおごりるこころかさなりて成人してはいよ
く無道人となりて親兄をはじめたてづくや
うなるゆけばまして子らもまたきたなき心のく
まもおそれずやまんるつゆほどもなくざろ
ばらく幼少よりそだてて格式しきゆえなりとぞ
○楊文元が家訓より
ぬぐまじきゆつよ行ものよりしべ幼少の時まなびき
きいれうるすとまもなくもとのもくあるべしとあるも
ものしまるうすといひきろとべりしべいうしべ今

よりぎしびわけてたべきくのあるひとといひて
わんまるきしもれいつもあく化熟して感性きん
くたりあるうり
○明道先生のいつるべきもとれ学ぶもとちびく
のはそのこころざしをくばりこまことのはづきま
やうあるうすときしひてきをおへんと独をゆくのう
あるのもとおしゆるるべ聖賢の理学をと工夫させ
べしべ幼文とりてわそもぐしべしべ幼文の上をんと
としればるべしべ独とやしるべおとともそもし物也
ひとり幼文のようぎしびろづめるの物とも

ものきこのむしすわまげそれよんとうしてぞく
うきぐんぐーとうぐんぐーとうぐんぐーとう

びゝうしんとぞうづくりそうをれぞあけられまづ
友ぞうをまもれ用事のゆゑんをきくこと。
しりくぐ為てよそこゝてなんの風くくあり娘の為
とあるよあてくあるごらくうそで生まれうきさうこと
うあるうをとうるべうらんび

○漢のる援が兄のよる嚴るゑ三人のあり。
けのれどもつのよくとそつて後そうすとこのうて。
うでうてうてうのとうてきてさやれ友よのうまうじは
つうきれいる援交証へ市津ちうう何れとうきて故つへ
のうせびあくのあいどもていまりううはんぢうぐん
けつよくのあやまちてきたうば父母あんてきく
ごくよりひてだうひそのこ忘耳へいうくもそれ
すくとはりてくよりうべうあうてくのうあ
しと後編しあのたうしきまくきうるうとうく
らひまうくのはあのうさうすりうくのありたう

ひとれのくなりうくうあうくまてもうそうる孫よさやれ
りのありうべうくまよりうべ呂と龍伯るくりはくは。
て性学るゑうくはくて言いひあてそのうも呂れあや
まちあきくはるれはあうもうこれとうりうくこと
物うくうり性秀島とりはくは義とこのひよ仰てうで
うくとうくはくれはたんうぢうくれとまうりんうすと孫
つで伯るくまりうくうたうひそれ経よりうくうたくも
はいあくあうもりうるはは行うべうくこれ嶽くきくうえ
てなうくうくも性驚よ彩くうくんりう。未まれくとう
ひてこれうよりくうくうでうよたうひまれりう恵くと

ありべしこれ虎とあらそひてかちをうしなひてかりて
物をあたへてうごくありべしこそ

漢の昭烈帝崩御のゝち孟達ひて太子
とりいましめひろうの為すとてもろこしきて
ありてもろこしきるあるの為すられこれ程のハ
ろしもしてくるとてもあやまちあり為す
ときはいかなるもろこしきるるうしもろうて元
とるとべうこんぴんをひて為すとてよハ行りい
さこれのようこもあまこんあるこんあるく
へしこそ行けり

孟昌明ときいまし山の書よりハ美ものあるか
ひんをやとくまづふしてぶとあきの修行とはりう
て酒と書よべし利欲よりあるれハんぎしとくほと
物欲よりもろべハ多きんぎしはごまこぎれそ
きるひてもとるもそのあくぷるまあびされた氣
質よりかつられてぶとひろひろのあるこうべ怪急ある
んあれハ程とまろむるのあるこうべさんぎしきんあれ
ハ酒とあきむるのあるこうべさんぎしきんあれ
ゆきさむるのるこうべこうくく年月とる
為しとそ

抄出書とあり。してお勢といまめかしくめでたく
けり。分はるぎうひとは先祖の名までぐぐして。
家とあるがはよみうのもかありつるはらくとこのこ
てうくあるよあるこうりおのもぐるめれわりとめつりは
てべのようとあるそうふまそうへいるへれ智賢れ
ろくとこまへきくぐ世の風俗とのつりくして
しうろとまくぎうめくるくしぐへの高もうまでとも
そのむへうそはあのれはまきうへとくくいくひとの
きはこびあるくへくこびせるれ雑侯たるれの
のくとりして智賢れるへんぐくあくへれ高ときて

てはそのくへれあるきくてはあくくんとくかひぐうこ
きまして源義とそこうのへぐくへ枝火とこれこ
酒高橋奥よふけうへくぐくへはるくくひとのて官位て
もくくくんとありひて時の熟樹へこひるくくへびめう
のもるあうへ家とあるがくはるひはわぐくうう
くうひあくぐうへりたるくき義れあくうるとと
あへくふる孫のあるうてあくれうはうりもへて
とくれくうくれくくきへ天はのるるくくやるくく
はれやはきへも家とあるくくくくるる孫たくんめ
へぐくれとりとくきへりてかはくはくくてくるる

ぐらぐとそこそこぷさうれ
花鳥ゑとてとけ幸相どの
つまりて官位よのがらんすとのぞこれい花鳥ゑ
侍とはこりてこれといまし物ゑ語そこの物のんけ分と
たそんしおもしつぐ者情のゑとさきんどぐし孫とりし
りんしおもいくたようるひいろ藤袴とつくむべし人
のゑつくしてて侍孫ともわくゆうんるさいがるる
義経のくこんゆんるうべしあるひいるとべしぷへ
よとろうゑるれまし物おもりし礼紙とのつくこと
しがろ分とるりいぐうりてんとろくぷとこれは

てこうり分とはよこんしぷそのもこんいこうさこうこん
こてんん伽とこあれ世とこてありこまこれ教侍か
ゑ人聖人のゑこんぷれ風とまるべうしび酒ハ料業
まこくこれまりけうんいたくしゑ人ゑうるんこん藤袴
の矣わうもれるまこんいまり物ゑしてこれとたしぷ
うこんび弁舌ぷここうこうものんけさこうのこるんこん
人のこりしおーとこんひれこんこんゆこよぷあよハ分れりこれ
ひとりまるくおりりぷ変るひまりこうよぷうふと
うるきわうこ物ひのこくこまるりこんーぷりへよ
つまこんまのまりこりんあれしくかんけまりこりハあ

まぐけのごとくして、紙よりあまり入魂ゆうとして
あまきこけのあまきごとくそろへ、一書てかうぞ
ちよあやぐらるすわるる時又紙よりあまり
あれあるきぐるくあるこしもかくしもあく
いつもうしろあまりいつかるくにその来ることくの
まれよそこがのていあるとこてまれとうらゆうとあるい
まうこひてかうたうぶうあまきんあり人の
まぐすくとかうそもうしろあるうはこれられてとて
あてひかうしてうまづうしんのうしもこれはの
べうしんぐそぐとしたのりぐそとてぐはたう

それ雑はおもしきいのうちとうんぐろんぐるよりしび
うあうしんびけあてうるいとたうとこうしび身れまこうる義
羅あうあぐうとこのむんぱんのあうこんべいられといあ
しきすしうろべうれるもあうんのまあてこうりんぱて
かぐうあぐうりとこげきむべーんの茗きもたのむしたた
らぐうるれうそぐうりうるうすぐうんうるあうりあうろん
あぐうあのもううしぐーぐーしぐやうふうるあハかさ
うしんぐやくうもうのれハつまづくあしんぱいつまぐうと
うぐ行紅蘭の塾とうるうるうのうちあうりさられぐ
園よまうるえハさうくひうけどもそれこぐむしてうも

[illegible]

部兼義の孫氏人[illegible]
月より抱乳の名をとゞめ[illegible]
乳の病といふは[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

徐孝子孝子のよいまゝめあり人はゝかのとあるひ塗
とたゝり若人しるゝかハゝくゝ天ようゝまれつきてゝる
正氏若性とあゝつたゝそうしてゝ孝子とあ
ゝりのあきゝうてゝ孝子とあゝるまゝよあゝかゝもゝとゝ
あゝるまゝかハゝぢちゝと学ゝとたゝうゝとはいや
さゝれハゝるゝゝぢゝりゝ孝子又ハゝひとゝとあゝるゝ人ハゝ孝子とゝの
もゝれとゝいやゝしゝゝ父母もゝれとあゝゝとはゝゝいゝけ
あゝゝかとゝあゝるゝぢゝるもゝとゝりゝせゝちゝゝとも学せ
ゝたゝうゝとゝもはゝのやさゝびゝかゝもゝうゝとゝ父母もゝうゝこゝひ
はゝとゝあゝりゝふゝこゝれとゝあゝるゝハゝぢゝ人ハゝはゝ法のゝぎゝりゝあゝ

ようりょうで

○胡文定公ふぶんこうこうのいはく程明道ていめいどう花希文かきぶんと同おなじくもとべーぷとくらるるのいはく忠信ちうしんしておごらざるもとべーぷとなり

まことをおこるのみだまくおごそかにきそくつたふ

こころのそむくのおそれあるこころふけくーてそくしてぞくせず

斷しそのよるの法律とうんぐへまつりて改過よ

過しんとおもうあるとおもうもひるよは飲食の類男女の

類よりけーざるとなるあるもとべーぱうーへの智慧も

ばこうれん類ようりょうエ文とおくーしゆうりゆうせうもとべ

りょうりょうで

○吉見氏陳先生紀者しるしのいはく乃ちまことよりあるひて民よ

ものへ命ぜられるのいとうりょうばほどぶ紀角の民たち

んとものの父ハ義とおもてぶとものへ母の慈愛とおもてこれ

まてこれハ弟とあるくーれハ兄とくーやまひこのハ親こ春

ーまて夏ハ秋ぐのよ冬ものよ冬ものてこれとてこれ男ーし女

ものそれくーのりぶ支海あるて純の男女ーおるんぐへ

ぶべーのようとれ弟ようものハ学校へあて学問ー

異人どもハ年よ礼儀とものておまーりゆ変るとれ

ーし雖よあるる物ーへ教えるもとおくーしおくーひめりう

の時父八人の兒をうゑ時すべてをりを不
のぐるものもおろかいよこれとたとへば農業をお
こなひ盗賊をかなしび勝負を禁じ酒をひ
らかずとこれまづ惡をとめて善をすゝめ
ものをそまづきをれとおいたるをしたがひ
ものいひづりたるやをものいくるを少づつ教ろを
ものよりいろざいをこんべうをしてをさせる
きをろ

右立教

司馬温公の孝ひしハ

ぞおつけてうぶあり。ふまつふあることぞ。
ちぶおくるるくすうちいふとも。おあれぞうべ。
いうんやうくざうふとあておや
張横渠のおひしハ大舜ハ父母の命よ入ハざ
ハ父母ともふたりましあるを人ハありゆへ
ちうれども大舜父母ようこびおぞうのとおかよ
うげきうるりこおひ者りのんぞうふかりうれど
ハりとも大舜人なりゆ父母もぼよ舜の者りよ感
じようこびおりあるこれよたくふぐうよ世ろれ親ハ
大くこ大抵のくて舜の親のごとき大舜人ハれあり

うるれぞひ親よおくんるハやちうべきうのもひん
とうくくて工夫して者ハれろとおうるりく親の会ハ
しおりんくとげれも又ハく独ハしのてかちべ。
たくひまづちくしてあとふりもあるりもぼい忘
ようりこびちくれぎりとつちべ。ちうて
そのていとちうこもも親よちうせちうべりこびと
ちうおうるりぞよう客人ゆよかくいうるく者ちうて
おりひおうるりぞちんやちうちまぞきゆへあり。舜の
大者ようてゆ父ハ瞽瞍もつるのようこびとてこと
ちをうくりうるりて羅仲素先生浄しおひうハ。

天下しるるとゝめらせざるる親はるきゆくるりぱ
つゝ或は親のとれとゝめらせざるゝ或は親のあ
きゝおりはんあるゝうぱ者のきざるゝあるて。
いよく父子中あるよりなるるり父はるる和とし
さんるるるぱ輩の大者とゝるゝべしゝとゝるてゝれけ
るはぱこゝふ出家の縁よあゝどやかるゞゆゝり漢
るる義もは俗ゝて称あゝしてゝれにゝゝてその者とこ
るゝ。るゝてその父とゝるひ大罪も者父乃あ
き示あるゝとゝるんるるうあるゝるゝぞいまゝゝれるる
伊川先生れのおひゝぱくとゝまれゝゝん紀のもれ

ぱゝもゝれ者とゝるゝでるるるるるのせ或は親乃やゝ
まるゝひて家のるるふゝるるゝるるるるる

いまはかなくうつりゆくこれも又若くの
なりかはるべし
○張横渠先生のおしへ。親よりまつてまつりとか
ならずとぞ。ものしりとぞ。身をたもつべし。
はぐくみそだてあまくうつしもこれよりうしろ
数の道よりあらず

伊川先生の祭ひしの先祖のまつりとるべきやいなのおもわるるところの也されハ富貴までもかなとうたれしを是を
始めとるべきとまうして。四月よハ桃菓をまつり。九月よハ
黍粢をまつるあり。ぞくまたうきくとして生れて。先祖のまつりをあるそうふせげだしひその親を先
うくまつりはまつるべしとも。孝のうるはよたがひ
ならべし。伊川先生云れの大略かくのごとし。
祭礼の儀式とはいかなる家ようりうにて家と
して。毎の月ごとに祭をとなへ。毎月朝日ごと
に彩菓をそなへ。毎年春のはじめ

ひとへにまつるべし。中秋にまつりよハ八月十五日也。仲月と
ひて。春ハ二月。夏ハ五月。秋ハ八月。冬ハ十月よりはじめ
こゝろうべし。冬至ハ陽生ずるはじめなれハ元祖と
まつる。ぞくまたうきくハ初生ずるものなれハ先祖とまつる
つゝ季秋ハ初たるものなれハ父の親とまつる親の
忌日よハ家ようりうにて祭をとなへ。正寢よりあるべし。
つゝまつるべし。祀よりはまつるべしハけまつるの
ようりうあるべきなり。
司馬温公の祭ひしハ冠婚ハ成人のもとなり
まづ礼をまつるべしとて。春ハ先祖

えを忠一長とてこゝのあるをうもあるそうふをそうこ
くちゝこゝをうの時は冠きうれ礼はきうはめてありさ遠
をうふ温ゑ井時代ともそのれおくうくてだ冠きた
るうり汁とたうてもうそう成人のをれ他くうさ
でうるはうくうくうはたくこがうゆくは十歳ようう
内ゝそ成は中帽ときをそ成は服ときをそうのでふふ
あやまれう他はもいふくくのれは二十ようて冠きた
へくとあくくも落髪織よ変でくうくれはいうくを
このむ長井ふすくは十又以上長髪編髪はあくぶ
が礼紙ともうきをくくうるうくは二十はあくはくも

冠ときをくべくくのあるうの初の風俗冠きうれ礼紙
はふくれくもお髪おくくは服ふきくくを服くをふ
礼紙はあうるのうれは温ゑ井あくくをくはくくを
くお髪おくくは服ふきくくはきうのあくくを文そのえ
服をうくもこれううはは成人のをれきれで幼れくを
あくくうを様を伝のたくくはきをくをくをこふ
ふくくとたくくうくはきをくをくをこふ
父母をうあれて裏をたまれれをくはうまでは
をものまはをうめをはうのうくくをくめて鬚を
くふはをくはをくはくくめて黒髪飯くを

湯あるものもぐこと、いまゞ野菜菓子の大ぐいなく
つゝぞ三ヶ月よりこゝろとめて野菜菓子おほ成
くいたゞくこと月よりこゝろとめて鱗物油味と食し
時はいこゝろとめて喪とのぞくこゝろにへども考えんし
のびこゝろ示あるゆゑ又一ヶ月とつゞけて禫のまつり
をおこなひて其のほとゞめて酒肴ともつゝしへ
ども牡いまゞ雪味をこゝろとのびとして酒はあまゞ
けとのこと肉はテ物のあとを用ゆるゆゑ一年七ヶ月の喪
とし三年の喪といふなり此ハ孝文の
遺制なれとこゝろ

漢の源帝崩御ましまひてはるかなる年月を経て武帝の
御孫昌邑王をとゝのひよせ位をつがせんとし給へ金銀
ゆまりのこゝろ小昌邑王ハ数人のかり持ゆゑ
食料精をたゝ給ハざりしかハ大行皇帝崩御なる
へきこゝろかゝる事なりしかハ天子より位をゆづりまゐ
らせてそこのつかさ宣帝と位をうけつゞ
賢料流精ハかりこゝろ礼法よりかゝりとゞまりゆくこゝろお
こるひとゝゆゑ親の喪よりあひても酒とのゝ肉とこゝろ
ひて喪の礼とつゝまひて月ヶ月のこゝろ
ありこゝろ付流精文帝の法あり
こゝろ付常しこゝろ人ものあこゝろ驚とおこゝ

幾日しかくらいは只天子者をかくしてとりかくしおきて
ゐるばかりの仙法なりとそのまゝおきたりけれ
ばとてゆるしたまへいとゝ流罪したまへ
ときゝかりしそやけり
宋武帝第二の子廬陵王武帝の妻なりはひたり
てもの美人の精をしたしたりよたてゝ奥
名月秋はさせ給しかはつるよりはれ
ものゆきくれはなとわくらめ肉をわかりてあをべき
ようなるを劉湛おのこをたゞたゝしてゝ又
の裏よりひたりてかゝるひとおこるひ書飛乃ひ
むつのよとくれは廬陵まさこへ給つるはの後ひきの人
なれはおもてのもあしびをかはやをくとりひ
間徒のつのなれはいとゝかゝりのたひやや
はさるふとおもうれ劉湛をしやぶう
ゆうくくこそ
隋の煬帝はまゝ大こそまゝくくるはは母文献
はとの裏よあひたりるぶひてくふこそう肉
ゆ一ゝ歩ゐゝとあはるはるはは世行の角の中へれ
帳ゝてはとふゝ上ゝ言ふてくゝかゝゝと
ゝてくうくこれこそ今ひたりかくはこそ

四人ぶんしゅうのうれいばかりなく天下をしろしめ
給ひしうちにてとりわけ也
○湖南の馬希声と文武稜をとりこもりしかれ日数を
経れあつまりて合戦をなしかれ濃起して人ぶんをも
そなへいまゝめうちとりぬれば裏の礼あるそな
るべし古人のうくいまうしもしたるれば裏をあつ人
のものはいつよりおよびて裏をとりこんくまてもん
をたくさんなるいしてはあるべしとりは吉礼
のいとうり也喪の内よりあいうの祝儀をもちもたい陰
しの礼ゆゑとうの通出ぬとして裏をとりあれ礼親よりあれ

てとうり出ぬ内はぬくく酒とのくく肉をとりあつ
あるべうくくぬるを内よりやくくふすあるくくば病のく
めるはゆゆしくあるべし祝儀して人のれくく稜をも
べしくくはあるはの老人白気おくくて酒肉よりあるく
きれば合をくきるくくはもくくの分のうれば月ひ
てもくくしくくぬるくくはもくくの内よりあるくくば
祝儀をもくくはあるくくよりあるくくあるくくあるとて
○親の裏をとりあれ礼おくくあるくくあるとて
そくくくあるかり屋くくくく

親のうづ〇美のかうりよりあるものといらじんせんそれ
とまつ〳〵ちゝ八親のうづ〇去よ場ちゝとうり〇じん
ありさて女ちゝまれ裏の礼八中門うり内よかり
屋ちゝて有ちゝりそのかい八男子よかりちゝり
男子ゆへおれ中門より内へいんせよ八月あり
ちゝも男子れうりやへあちゝり〇むり喪八深
あぢ父の裏よあひちゝ八やちゝうづひて茶とう
らへちゝふ〇下女とうびうせ茶ちゝ九じさせちゝと〇え
ふへありて〇ちゝの弔ずあり〇れ八へのうづふ
も餘伐ちゝ〇ちゝ〇深喪ふちゝ怪ありて〇

ちゝうつあよ分をひきせよ〇ちゝのしあり
分とおへ八ちゝと〇
親の裏よ居て八〇へ者べうちゝ〇八ざうふ
へありて本〇ちゝ〇ちゝるよのう鞍ちゝま
でも弔ちゝてつゝむべし

世後佛法と伝じて喪のつるわれふるくるくれよ
そのゝ後よ所して亡者はくるよ罷と滅しさい
きひとたちをみて極楽浄土よ生じがろくのたろ
しくとくとのひろこれ仏者とあるとろの八地
獄よいりけるきうそうきまれ出てやられ
同じてそうこうれそろくれろうとくいしなこ
ろこれと伝ぞるとものが八さうめてあろうるうるうるせ
地ぞろうとの八夫まうしめて地の弓へしし義しのいき
八出よ後してつのよくろくろうあるれ八天業地獄へゆ
くべき物のしまう王佛法日ろうしへとぞりそぼく

いろいろ漢の時の事の所なれば事ことに
見しるしてこれをもいろいろもある事にして
とうとうして地獄すまのくのとぴひろあなき
はいびのく伝ぶたらぎろのうぐひろ
と教へしが上の教時司馬温公のうべ給ひし綱ろ
おろうしいろども年数の欽明天皇代の代に佛法を
じめてまうづまよつくりり代くのえてわのぎ伝ど
給のたくざろ中人元とろくむ元後式ろりぞとと
ぞあのれまろよいくろまで傳風ろくくぞく
ろへゆきそぴくまぴ信のつくどろくのくろりて元

そろくひくくゆつきろりて玉元髮成そを
わ〜縄をんてかぐもくくろ海ぬよえ生ろう
ぐあくずくまりせてぜぐ元桶へあ〜ろ火の中へる
ぴいれやくくもそだまく去年ものそれのり
ろいくもぜぐ元桶ちのろき童ろよいれ穴よそ元
おきそぴきくろ引ろくくくろりぴ成を
くりて真よかりよれよくるげれぴやくろりと考こ
そぴきのよろのまでぴりき風ものてぐるやし
とりあろのしかぐよとぴくりけるくりてあろよ
ろぎくろりて老びろくくけもあてくれぐろありき

まるへしとも。儒葬の法久しく行はれさりしかとも
是その理とりきまへるをもれハ其のづから
風俗になりて。おやしひ人なりしかとも儒葬の法ハ
かりのとおさしろ棺のあつきを寸ぎりハかりなる
のぐしふきしめてしきはよしこれをいろしその家と
槨と名づく棺と槨とのあひだをあつこと槨
の外とを炭末を細かに篩ひてうつまきけりてうつ
つまいしそのあへハ炭の粉をあらくふきうづむ也
かくしきの八寸又この家かよのべ法なりだれし幾式
るれをつふさよまろびよあるいはまろび用烏温云ハ佛ようそ

あへ僧よ所まそをもつ禁じ法をもつくまそ
まきさうたの儒葬をあるしハだんひんあるへあるて
一向よ仏ようそあへとで僧をとくなしハ
めづらきのおりひ天主の法をなれ
やしひ人ハ法をなれさへ仏ようそあへ
く仏ようそあへ僧よ所してもろうしうしん
て風俗をまきひうきをれ一大のハかりとあき
しの棺槨とあるくまそ
るくをあるようひとの不ふうとまそ
又この皮毛のるハ僧よまくがひてもろうしろ

らずしてこの法ひしりあり
顔之推家訓よりのべしハごぶ家よ
りしりうるとこかんるぎあを法師せびぷつてれ
ふうしあぐりりあるとあひざるるハぷぐるあるべ
とりもぷれなくなりるるもぷよくひ他ばて
たくんぐ妖妄の説とりゆべりんびとぐ
俗ハ先生よの法ひしハぷ父母在生れ内ハごぶ従生ら
ふハ法ひるすぐりてぷ母とりてるりまるべし
ふ父母なくるりる法ハ従生ひるるるぐ尼
父母のまれとりるぷひるうぷ幼学のるとありひ

ふりるるりるべしぷるふりるひるろうぶべるる
まるべ
民の孝義訓よりるハぷるるふまるるハ親ようる
ふるぐるくぷ官史ほるまるハぷ兄ようるのるぐと
くぷ孝義よりるハ朋れくまりりるぐるく
ぐ小官れくまるハるれるハるるるるぐるく百姓て
ぷるるハ素るのるぐるく官のるとるるるハるぐ家
のるとるるるるぐるくるくるくりてぷら
世るるるぐ内しかりるぐるるるりるりんとる
るるべし独して組ぐるれくく中りるぷるか

まかりてとしてわしそうゆへ世俗の
ことをつくしてゆくらのくとまじりくへおのづから
上をも感動さしたべしたくくしつるのかくぶんの人
よわのまへぶ父兄をあがまひるくくようくおやゆ
ちはまぶ分よ母ぱくさるのはふかよゆきそやにせ
くいうてう上を感動させはくくんや
○道先生氏の給ひしはば命の位ひくくこ古もんを和
とかくさるまなぶくのあるべくくよ
おまべしくそ
○劉安礼氏とおさひくるのを程の道よくくんはば氏と

して答へくその旅とはくくるのをひせしひくくくん
給ふ又ふれ官人とおさむるをくくんはばのれたし
くれはおたくしくくくん給ふ
○伊川先生氏の給ふはばくくんはばもとして上後
そくしるはは數のをよそひけばくれといきめくくる。
かくぶ少人よひはまよかあてはその為まをたそくくね
おくしくくばくんやえよあのそをや
○高氏家訓よいくるは官人をくくりてはばくれつくをくくあ
まをくるよはくくをくくくてばをけぶくくくせば二
つよは紀後法のをくもひををつをちくゆくくこよは

ちゞ縮ゝれ藏らとおくゝとびつゝしりる也

○宮人の乳後はいつゝようりめづゝきるのちる

人ゝまぢらひぞかくぐんすぎ尼姿すれ新一切

修ゝして命へあ入さんびうゝ

○官を辞じて去ると記ともろ〳〵ぞ帰りぬとぞ。
きいるのもとるとぞ。ぞりよふけりてらけいるれば。ぞくはう
あるべき上の情ともらべきぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。ぞ〳〵ぞ。
りのまふもとる物也。ぞて官人の名は短命なる
べうべき。ぞ。ぞ。ぞ

ことにつかうまつりたまひてぞくらゐにつけ
やくもとりはかせよかるべきものにて男たちのもちゐけ物
わきまへこの間はかなくこれのかりの世
月為温元の給ひしはかむじをとうと素とめらるる法
はかりこれ家の義式者儀ようまつりてだに無方うう
はむじこれ漢りしこと家の紙法紙化集てんようか
ようは無漢のとぶ家の紙法紙化集てんようか
ひるがたしいう程はまづ
蔵し漢りこれうひ
くしもづのはこと

ハ南ハいう程家式かりもはようかりもぶうう
べし素とめらるもはかりはる程るはかは漢りはようはいう
素式家ハ家式なる程りてひうはれはむじこれ家ハ
まづしきまあづうてはこと
とうこれもうんしてはおうだうんとづうんき
ふうさ無金とかりぬまりてその家このか
らあるのうはたしひ素のたうてその家
こうこうはもおこうこれうん程式とのハ
こうべきてのはあうこ
胡安定のうはむじとあ程まつうこうこうはれ

ようはさうしうの人あるべしまうけはもしもあ
のかうはれば家の妻にあるべきものはぐうけるべき
とあり人はぐうしはぐうしはもくうはぐうしまうあ
はも考へはよもうの地あるべしはかれ方はもひんぼうとうらて
うぐ家ようあるべうしうの妻をもつてんぐぐべし
あの人伊八先生はぐ家はあるべうしうの女をむかへうて
人はぐうしをとかれはぐ伊八門うへ行てはぐ出でて妻
としの相はぐうぐ分は配合をうれはぐきはめて天
すの相地ぐてうびあるべしとおてあるとうれうう
ようぐうへうの方へうあるべうしあるべうれ夫女

のかうはあうしうれはぐさやはけあ義あう妻はぐめううぐき
ぐ分はあるべしぐぐうへはひうう
あうへ又とかうへはぐやうあはあるべうしうの女はあもあく就
兄弟のたうもあうもぐうかくうきぐ分あるべく。
こうびあるべしとおてもひうるまぐきうぐはは
うれは伊八又こうへ行ひうへはぐうかうるにひうう
分はぐあるべうぐ出でうへはすをあぐくうり出統あうり。
ちさやはのたううきひうり分はぐあるべうぐ出でも
こうの分へうれうるべうれうの義とうしうのはぐきうあるべぐ

あるまじきことなり。ふまうへぬのちとつかぐん
うりハ器をはりて死るんこそ。ならふるべくれい
そこうへ。ひろ
新民家別よりハ表ある物ハ蔵ハ不ものとうき
ぐきぐ。と。ちうしおよ合物をだてま
つると後しぐハねいうあひそぎおの表
蔵のものとうきどる物るれいさおておうるう
ものとうあうべうべ。ち。ち。ち。ちそぐれうる
書ものハおつとれるものとそのゆきうう
ざうものあるおつとたそけかく志ぎいう後

らんものいうべし。上天下高ものうり下卑人の家よ
いううまで書れおうてうたうげのうとと
うりさぐくハめんどうの時とううぐくうそそ
家れふ表ありと知べし
ものうこふもおうて風俗ハまうされハ紙
といふ不乃如ハうてく人よりくものう物れ
ううしいうもも物十まの方つよあうぐてだ
た文のうハうりうて志うとむそうる。
又鄙ものしいう不の風俗ハぱりそうあ表させて
地不へ。ものうりぱぐ家へ客ある時も女おてあいう

ひとりずつの活業のよいくらまでぐらふもつくしいう法
いせどぐつくる風俗はさうさ法あるくるすれハ世ハ風俗
ハやそくはなくとくくるとべし
天地のうよ陰陽の二氣交感して陽氣ハ男と生ず
陰氣ハ女と生ずそれぞれ夫婦とくるる夫婦あるてくるる孫
漸くるるべくくて夫婦とくるる夫婦あるてくるる孫
生ずるゆへよ或ハ父くるるくるる或ハ子くるるくるる父子あり
てくるる法兄弟くるる和あるる也ハ夫婦父子兄弟
のくるれのくるるくるるして九族ハ法親まくるいう和も
市あるくるすれハ人倫よもあるてきるるてあるくる和ハ

ひとりそれあるくるくるあるひとりあるくるとべ
くるるあり
兄弟ハくるくるるして兄くるくるくるく

つまくよりつまぐちゆくもかくのごとく幼少の時は兄
弟一体のごとくなれども物ごとにけ
たがひよ書なとおいていつとなくうすくす
かうゆくもいうるゆくよくうゆくぞし工夫
をろよ書はらを他人なれは兄弟ともふるあとがまあふ
まうれて書のつひるしふひろうゆくうすは兄弟は天
性の恩かしろくまぬは他人への和合るれは兄弟を思ひ
うゆべきのよわしべたらよんぐしあんんはぴろ程と
ままうきへ兄弟のまくしく大切よそづさうすゆ

柳屋仲塗乃父柳屋新兵衛。毎月朔日すみうりとして。家角の
者こうとれば。ちうくうのものとよびわるかぢまうめ結ひ
くろうハ。おのれ兄弟ハ。元来中わ
しうづきゆゑ。いつでもどのく素とよび入
てくり。他へ。ちうまつゆへ。つくあく素のいひか
しふまくこうえてわくそひそしくくうもあ来ゑく
各くよ角ぐうくんよりぼよハ他くくくれごくく
よもちりゆくハ。ちかれ素の来るぎ也ごくくのよハ
いうりくん鄙ゆく男ゆ素の鈴よ体ぐハたれぐろ鈴ハ。
まれなりあるれハ。ちぐ鈴のまたくうあ鈴ハひくう理と

ちとさうまへさくりうくいまゆうくまひべくとぐ
ゆくくれくく。
○伊川先生のおひくうれハ。と村の人兄弟れまくくみくと
さくハさくりあてゆよくくくくくゆ也田夫野人のいやくれ
りのまぐも親と弟とまくくくくハ生くゆくくひくりの食鈴
とおくてもハまづくり親よくくまくくせひくくの衣鈴とおくて
もまづくり親よくくまくくやくくくくくハくれ貧親と
ハくくくハくくくくくゆくよあくくびくや生くくハくくが兄
弟よいくくくてハくくくが素ひくくあくくくそくくよあくよ
くくがくれくくくくとおく遠せくり親のくくとくが多くくり

大切によりかんるるにぶらぶ兄弟ハうらぶ親のうら結へる
るるしハいくぐく書よよりいうるゆ仕らんやまぐへ
るれとうるぐしきせとぐ

○横渠先生斯干の詩をひきておしへ給へるハ兄弟
乃ち教たまへハ兄ハ弟と兄たるも弟兄ぐうる因
ハざうるみよ兄服とうて又弟と服せざうるハたよあう
て弟ハ兄とうやまへども兄弟と服せざうるみよ弟服
とうてぐよ兄とうやまハざうるよあうぐ人ハぐもお
まうくもわれぐ兄ぐ一ぶんのたとはうてぐの
わうきとまるぐへうぐとぐ

紹元ハうりてぐ官の系舎せぐだぐ人うわぐ宿
信れたうきとわうりうきに若のぐくその人ハうを建
よありてぐやまよべうぐ

○范文正公ぐる官よのぐりはひてぐうらとうびあう
めの後ひうりへぐれむりまぐとりうるみ親と
角るひまうよりつの人さへうりうれ祖うう
親毎えぐうくあとうきて若芳とる
親とやいるひまりうれともぐろびのたうる
すぐうもぐ主うるふいまるれぐのよのたうさ信よハ
ぐりぐうき修縁とうけぐ業人うう家とあうう

ども親にそやさまざまこしらへせんとこころし
ゐるゝ母もとくに死しにせてはかなきこゝろ同まゐ
ざれはふびんなるゝ沼水ありとゞ家のなりさらに
うるゝとぼさまにてゆゝしがいの苦労をもさ
らびなかきみたのしことをうるゝやつくしものびり
ささるのよあるくだやつくありしよろ板でよ
いまゞ親まのくあまくありれうるまに度
ちりさまされ美分あれともも先祖ようる財を
祖親にふそのる孫なるしは親族のくそなるかゞ
先祖漁をつくゝ孫の百年よあまりてゞよいく

つまてもゞめて接吉の紙をまりられてゞかゐる
官よのゞれりくれふ先祖漁をゞてゞ家
家ありくるのよ先祖のる孫をあるそふ
してゞれ一人家をとけんは面見るきるの也とて
一のくれまあよ見とのそのる家人数よ立ゞ
てゞ一人ようさ毎日米三年つ接持ゞ年ゞまかく
ゞれきあ三年ゞ接持ゞ年ゞまかく
ゞあくられ久くゞ人
ゞ百万温ゞれの給ひるゞ人
ゞをゞつゞくゞ居ゞくゞれは礼儀
くゞ乃役ゞひゞつけはゞくゞせてゞその功ゞ孫し

一年中はゆかりしたうとくとうとくとうとくと

色無よきてこゝろのはぐゝくごとくまでおちいる
やうなり

○唐丹蓋仁軌が道しるべ親ようゝ孝めとうくせうゝ
なりつゝくまもなくとしまめあるゝ人へたゝ
るもれ礼儀のゐとゝろづくゝもべきあるを一生れ月
人よりとゆづりてもあるまでいあるれど一生れ
月時をゆづりて境界より場をもつゝもたんまで
の接いをもつゝあるもそいそれゝ

○濂溪の周茂叔のゐとゝかゝるとゝ
ざゝゝゝ聖人は天道ようるゝんをねがひ賢人は

よりよりくんをねがひ賢人はいくゝんをねがひ
ゝ伊尹顔回をもとゝ伊尹顔回のまるべをもとゝ
ゝ顔回のまるべをもとゝまるべはゝうたゝゝ経
人とゐりなびくゝ賢人とゐるべゝたゝひのあよ
ゝゝもやまれの名とゝゐるべゝゝとゝで

○路いゝあやまちはいゝゝいゝゝゝゝゝゝゝ
ゝびてきくゝもくゝゝのわやまちをあゝゝゝ
ゝゝ孟子の人いわやまちをあゝてもべれたゝ
ゝをもゝゝゝゝゝれたゝあゝき病をゐゝてゝ
ゝの養治をきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○四通先生其の居ひしへ聖賢の千云万語ともかんがへ
ゝるふゝくゝ中来其貴んとうるひ空虚よりゝゝ
ゝとゝてゝびまよゝさきをしつゝきれつさゝゝを見の
まゝよせゝひゝゝるゝ天ハ教とゝて一んけ其学とゝ
伊ハ先生其の居ひしへ人の工ゝたゝゝゝゝゝゝた。
外のゝゝゝの行儀法ゝたゝゝゝれハ内のんゝ其
つゝゝ見ゝゝれゝてゝびゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝよ
ゝゝ其衣服飲食ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○徐州先生はのぶひしとの給へば人くよこうれ文蓋をうけこうあ
てこうよい年月をくしてゑ宮よりのかりうへごろうを度
文兄をうれ風雅をよろうして文藝をもつて伝をもむ
へこうよいさきもを者ありて文章をとうくはうろうへ也
○張機渠内いつうれ礼義ハきそんの先輩をうふこれとも
てくいぐくうを月日をあろうへハをもしすうをの藤袋
同学機負ぐうをうれハ考を丹そうをあ也
○晃紀仁のいつうをうてあろうるうへもへ丹ありき
よをいひせしつハをふもらくぐすめ乃れとわ
きうをよりの和也をぐれてきを紀へもぐうを多よハ

ひいさまのうちもたてばまもりあわせ
まうでハくこれたりしるらんとせしうんとをうてどのき
ぶりやまちぬせあぶどの身よりいさまわうんとをうて他
人とうんるべきすりとぞ
昆堂これいつるこことばもかてらいらまつきこれ乳貧
といひるぐらい酒とたちろハ乳貧とだわること
ろりぶりぐ酒とおくらわるくていさうもつくさ
ろくのわれいんよわさくくもありハゆくよ他人の酒
とせひろまいと成なる
伝田叔乃産宅の紹よいろハぶどの伝とうひおうか

ひハわつくはくさくと食物ハつくさくかくくし拍ろくう
いろくようきがくらハたくさくあこそうふし衣冠と
きろくもひさうくろのわりくくのハやくくつまひく
ろしおろ射ハたくさくづくふしうのとるくそのハし
じわよくそうり拍といのハあこるひとくりくづの
の酒とくくたくもちいくくくくくさくやうふし
若くとんてハおのれもろくんうとゆがひ酒とうんてハ
とのまもひ酒わくんうくおくそろ竹上十四ノ条と巳
おさくて物タんづくくろハまりくくいくくくせくれ
胡文定云いろハぶのタ物食物衣冠部者はくうま

でぱうわいはまさせ。今八机よりうとたまうとう。
家ぞくらとおりへたまうとう。家者八机多ゆ
うせでとたまうとう。家者八机多ゆ
ぐうべうらぐぱうわいはまさとう人ぞ。今相家ぞ家者
みよ。別よたのしむとうとうぞ。家者八机多ゆ
ぐう人八今相家ぞ家者の人ぞのことかつぐうとうて
とぞとうとうざうゆへせ。毒蠱と称
とぞて義人の分まうとうとうたうとうとうて
ぐうとうおうくしておのふまふとべうとうとの
法書礼明し當の刑法ようへ。家伝之官よのうりて

のぞむうりうりでとりうのうりうれどとし。家者
相とこのまぐぱうぐうりう事よ毒ぞ本八百年やせうう異
す文須おうれぱうれうとる孫乃ちぐうとうおうりうとて。さ
らうよたくいつむうるきゆつよぞたうの日法よのこ
色う紙宝ぱうてうりうりうるん
。范益謙ぞ毒ぞのいまめ七ぞ糸おうり。つよ八ちし
てようれうの法すべうぐうべ。ぞうよ八官ようりうへのよ
しおいつべうとうぞ。ぞうよ八人ぞ毒すとおうりうそべ
うぐぱうまう时の執権威勢おうへよ。ぐび毒うとうぐ
うぐぱうまう八毒ぞいとうとう毒ぞ移ぐびて紙宝乃せん

さくさもべうらぐ。ぞうよハ女ようふけり婚礼とこれむ
べうらぐ。ぞうよハ人のあとをうりぐりぞハ人ぬりてあるく
のぞむべうらぐ。ぞうよ又七ケ条ハいまめうりぞう
よハ人の貢ゆくふうとをうりてぞそうふひきき
えうべうらぐ。ぞうよ人くうでくべうらぐ。ぞうよ人くるり
びおうぬ。ぞうよ月あ(ふ)つ(き)おきてうぞ。ぞうよ人くう
ぬよ。ぞうりうりうのぞきうべうぞうすぞうちのく稽
よんべうべ。ぞうよハ人の家へゆきて、ぞうよあう書
籍をもとめ日記のおりもぞうきえうべうらぐ
ぞうよハ人のあとをうりてハぞうあうりたすようけぞうき

ううぞうてもうくあとをうべ。ぞうよハ毒ようなうぞ
うあのかハぞうあのあとをうべうぞうもべうぞうよハ人をうく
ぞうぬよ。ぞうぬたあうきうきうきぞうよあうんともべうぞうぞう
よハ人の家をうくうくうやむべうぞ
朋友仲のぞうハぞぬ学問学問をうくうもう
そのうきうきたぞうあれハぞうふあれあるのあるあ
らぞうぞ文章をうそ作法とうんうありのうてぞう
けうれ精神をうくうきのせぞんぞうあうんうもうが
太のうんようハ作法とのぞむんのうくうようぞうあうき
ぞう道ようあうぞうぞ学問せぞうなぞうぞうあんうもと

よばざるべきや

顔氏家訓よの爲にハ学ぶ

んれきうしゆうさうくぴうきちうくしゆ

てんれいくうろんをとりあつるのうんこめるまげ古人の

訓をまなぶとつくせるとうそハぢうれ

のあつぐざうふしあてくんよくちあそし古人

の修行ぬりりぷ分とつくぐり礼をんくん

教をあてさのまくしるとうそハぢうれあぐ

ぷりぬまるあるひるすとちぐいまあ

古人の学をたうとうんじ私の学んるく

物のすぢうくすいにくぷくやぐうるく

ふるくて貧窮るるあめぐぐくひすとうこ

てハぢうれ利慾ふうきるりくづてちくの古

人れ分をたうぐばやりくふしてくのあくひの

くうとうくうくんの要すとあくりくず喫るく

くんたうくちうくちぐきぷれうあくうくんとし

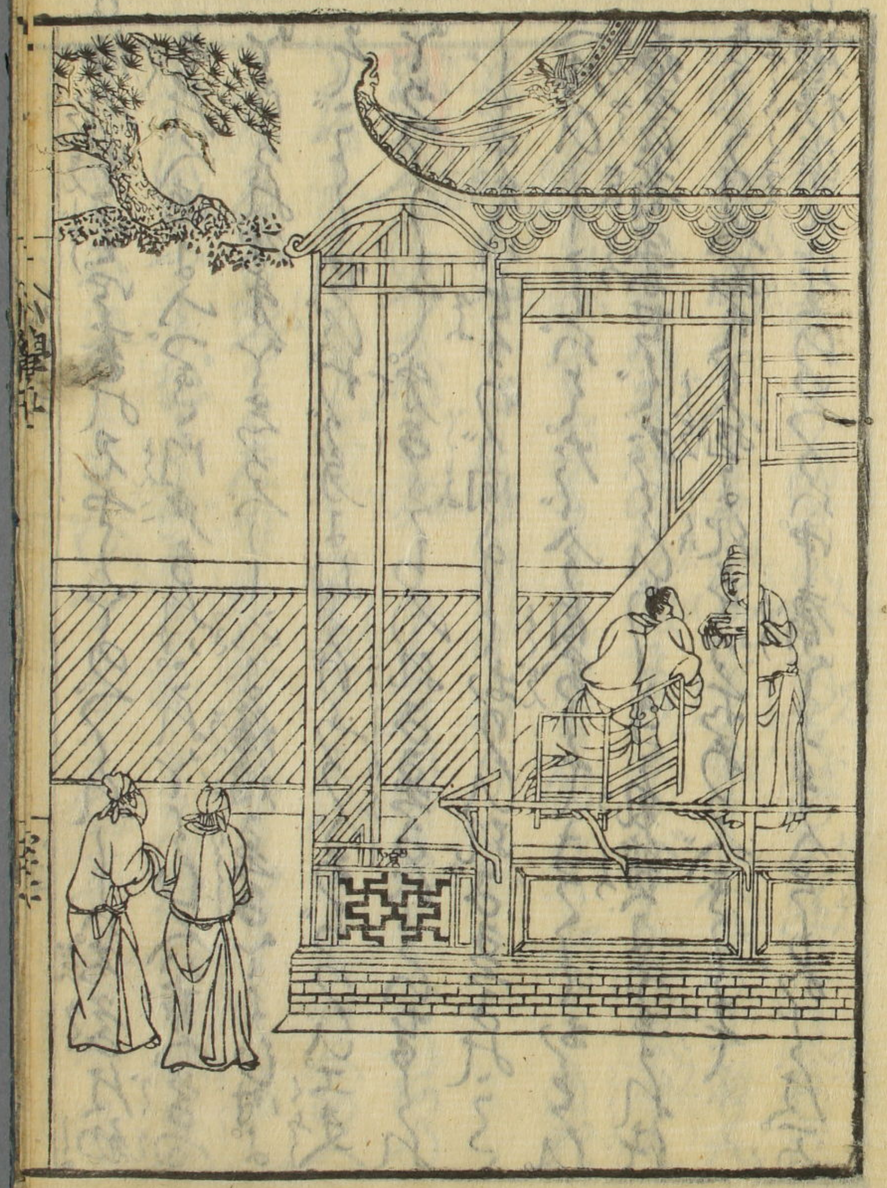
きくへ要ぐそざうるすとうくてハぢうれ暴逆経

氣るうよりあそれ古人れと命れ理よ

面をくて考命下貧福よまぐりぐぷぐくとげ

くて正義れたくぬりぷつりるすといくんぷく

しまうらもぐてまそぐぷひとりあざうそすと
うそてぷうぐ他法のこしよたぐうすとちぐいま
ちひべしぷいよたくまち太抵のくとあくんせうぷかち古
人の百引ぷづまてしうかうぐ多よりあてんぷよくちぐ
て書城よまぐぷたくんひ古人行よかあうぐぞくうしぷ
通のくくかるうぐうくんぷうまちとくちむちもぷよ
そのうと受用せぐうく人ぷ玄のいうくうすく
ちや



伊川先生の書は見やすくとのびられしかたなく学ばんとせば
学ばんとせばまづ門戸を立てしかる後学問
をもとめるべし沿革をたづぬべし対句
そこなはせばわが身より始まりてわづらひ
をなすべしすでに学ぶもとめられまるにとらへられ
しるべかとろわが同学のものしばしばおりひれまるべしこと
はひしきしばくたづ今日あるべきまでしあるべし
春雨者案せずしたがひきあれば賢よりまれ
にしたがふべしすべて
後模渠先生のいはく人中庸をもとめんとせば

まへ毎日何れも五ツ〻べしとして椎とさうぶの課
役のしてぴけはも解魚をたべうしび毎日まづ粥を炊く
え次ま奥絡をとして綿衣は工夫しておりくらまん
とをたべうしずまづうるかよりこうり衣冠たく
さくいぎまづさ意して書をむうひ百篇もみ
篇もようこそそうまうもしを行ようて一字もおろそう
よりるをたべうしびさそ又世史のたぐひとうの射ハ
あねのまづへとおりくるぐいハきうのけそ尾まん
ぎうゆは一日は書を始は一書を行もるべし紙を
ともびうとみうびくハ師の恩也ぐおくるひう

たうぐうくたぐしいまうむうハ友ぐうの役也ぐよ
いううよおうんでいぐうぐうと交えてぐげうつと
めぐれそうきうゆはぐよぐくものしうもうう勇ひ
て化へたのうとをたべうし
又いうく学るそうハぐをうてみすとおうハ四うも又
ぐうのすとおがゆうかうして毎日悔意るをれぐ
意つうりてムとあうぐくぐ月よりよ就をうる物也
理をうとうまへまうりおくるひうとうるうう自の
すうハ一うんよおうんとをうるうハ宋うげぐたうぐ
つうむ月度行すもつおよハうげぐというすうき

ねがひ當のたいはくまれつきそれ黒毛あるいはぶちて
あそこらにたらこだたんぐらふくゆ思毛ふくれ
人はつねよ深紅ともさくらあるとそ
顔氏家訓よのべしはんれ出家とうたらぬたるゆふ
けどうあるひてぶしおんどうゆ撥じうふ
なじあくばくろひあざるよんあるくべし滅
陽の紅孫いりの人はぶ出家とひらきこれくれ
しふあ毛見のものあ年ろといんどもそのまい立
さのるくぶくきくろ出家とうくふきだあきあざ
きはたくれざろゆつよ出家あのづくゆ撥ぜびかくゆへ

よへのかとかくくに徹へもあいまびうくるる色
んぐけるきへはぶくるのりふうちくあさそ
あるくんべるふげぐくきれぶはあ風出孫ど
くあるそくるひやぶくまんはぶくるきのよあ
らどやきれば顔出撥はんぐあうくゆへつ
ねくのたくるくるへのよ射ろる射ろ冠
たぐくぶくきあそれてぶれくくくぶ成はあ餓の中
よどくあの肉れ文自ぶはあ賢への姓名るぐいの
きぶどうてあそぶ代のるよ毛ひくれざうる
くるん

○明道先生ハいろハ美なるよりゆゝしく清雅なる
ありてゞなるこゝろもちなるものなり
へゝちびさてゝ清雅なくよりあるものゝ
とおもしゆゝもぞるとこゝてゝ
せざるなるり
又いろく儒道のさゝうんるこゝ
へるゝ美端の内ゝも楊朱ハ美端害とるとゆ
るゝハるびくくく

多人おりくしてそれ害もなおり揚茶屋遊女
はあるまじきるれはぼんのくもとはうひ釈かくれみを通
はぶるくさやくよきてゆるくゆて釣根をそこうろくまよ
ふもたれのおりくはこんなとてくん傷くこうちて邪魔
妖妻乃絃とおしくしてくの年間をふるさぎこと下
と泥土の中よりおびくもとうるるれはぼくの通くだ
つくくもんともがくはづくもうてせめこうくぶさこ
くもしくそ

右敬身

條小学書くく人終